

Rising Moon



令和8年(2026年) 7月16日

受験から 目をそむけ



ひまわり
ない 向日葵よ

作 中学3年生

平年より早めの梅雨明けとなりましたが、連日の30度超え、校舎外では熱中症指数計が鳴り響いている学期末、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。いよいよ明後日から夏季休業に入ります。しばらくの期間、お子様は多くの時間を家庭で過ごすことになります。充実した夏休みになるよう、ご指導と温かい見守り、そして、Iメッセージをお願いいたします。

生徒たちには、授業が止まる夏休みの期間に、I学期にできなかった課題を克服するよう伝えられています。また、教育相談にかかる校内掲示板には、「夏休みは本気で頑張るぞ」という言葉を紹介し、その取組を後押ししています。8月28日(登校日)には、たくましく成長し、自信に満ちた顔を見せてほしいと思っています。

夏休みに注意！子どものやる気を奪うNGな声かけとその改善

夏休みは時間に余裕があるからこそ、1日のうちの少しの時間でも机に向かうことが、学習習慣を身につけるための絶好のチャンスです。とはいえ、やる気を出してほしい気持ちをそのまま言葉にすると、逆に子どもの気持ちが萎えてしまうことがあります。

そこで、夏休みにありがちな“やる気を奪うNGな声かけ”と、それを“やる気”に変えるための声かけの工夫について紹介します。

(1) 実はNGだった4つの声かけ・・・その背景にある子どもの心理とは？

子どものやる気をくじいてしまう言葉には、いくつかの共通点があります。よくある声かけの中でも、特に気をつけたいのが以下の4つです。

● 「宿題やりなさい」や「勉強しなさい」など、学習に対しての 命令口調の声かけ

→ 言われた瞬間は反応しても、気持ちが伴わず、「やらされ感」が強くなり、自分からやる意欲が育ちにくくなります。

● 「またゲームしてるでしょ」や「どうせ～でしょ」と 決めつける言葉

→ まだ何もしていないのに否定されると、「伝えても分かってもらえない」と思い込み、親への信頼感が下がってしまいます。

● 「そんなの無理に決まってる」と 挑戦を否定する言葉

→ 新しいことにチャレンジする前から否定されると、「やる前から諦める」クセがつき、自信を持てなくなります。

● 「今すぐやりなさい」と 急がす言葉

→ 心の準備ができていないタイミングで急かされると、プレッシャーや反発心が先に立ち、素直に行動しづらくなります。

これらに共通しているのは、子どもの気持ちや状況を考える前に“親の都合”が優先されてしまうこと。子どもにとっては、「分かってもらえない」「どうせ怒られるだけ」と感じてしまい、やる気どころか親子のコミュニケーションもぎくしゃくしてしまうのです。

(2) やる気を引き出す声かけに変えるには？ ちょっとした伝え方の工夫

子どものやる気は「自分で決めた」「認められた」と感じたときに育ちます。だからこそ、声のかけ方ひとつで気持ちは大きく変わります。

たとえば、こんなふうに子どもを尊重しながら伝えてみませんか？

◇ 「宿題やりなさい」や「勉強しなさい」 → 「どのタイミングでやろうか？ 今なら少し手伝えるよ」内容を命令するのではなく、選択肢を与え、行動の主導権を子どもに渡すことで、自発的に動けるようになります。

◇ 「またゲームしてるでしょ」 → 「今はどんなこととして過ごしてるの？」

決めつけるのではなく、まず状況を聞くことで、素直な気持ちを話しやすくなります。

◇ 「そんなの無理に決まってる」 → 「面白そうだね！ どうやったらできると思う？」挑戦する気持ちを尊重し、前向きな会話に変えましょう。

◇ 「今すぐやりなさい」 → 「あとどれくらいで区切りがつきそう？」

タイミングを急かすのではなく、子どものペースを尊重し、寄り添う言い方に。



頭ごなしに注意するのではなく、「いつやる予定?」「ここまで頑張ったね」と声をかけるだけでも、子どもの表情や行動は大きく変わります。大切なのは、行動をコントロールするのではなく、意欲を引き出す視点です。

(3) 言葉ひとつで学びの姿勢が変わる — ポジティブな関わりを

夏休みは、子どもにとって大きく成長するチャンス。その一方で、親との関わりが学習への姿勢を左右する季節でもあります。

共働き家庭などで一緒に過ごす時間が限られていても、帰宅後に「今日はどんなことを頑張ったの?」「ここまでできたね」と声をかけるだけで、「見てもらえている」と感じ、やる気が育ちます。

まずは「何を言うか」より「どんな気持ちで伝えるか」を意識してみませんか? 親の声かけひとつで、子どもの学びへの姿勢は前向きに変わり、親子のコミュニケーションもより温かいものになるはずです。



【 KECゼミナール コラム より 】

十四の時は二度と来ない

徳川家康の第十子で、紀州藩の祖となり名君と讃えられた頼宣の言葉です。頼宣が十四歳のときに、「大坂夏の陣」がありました。頼宣は先手（本陣の前に配置された部隊）を希望しましたが、若過ぎるという理由で家康が許しませんでした。その時に、家臣に言った言葉です。

十四歳という年齢は、確かに二度と来るものではありません。当然、十三歳も、十五歳も二度とやって来ないのです。その時、その時を大切に過ごす、ひたむきに生きることが生徒の皆さんの生き方を充実させたものになります。

今という時間を大切に出来ない人が、明日という時間を大切に使うことができるはずがありません。この一瞬、一瞬を大切にしてください。

さあ、明後日から夏休みです。その一日一日は皆さんの未来を決定付けるのです。



【ここに響く言葉 Vol.13】 ご家族の皆様へ

子どもが一生覚えていること

- 1 抱っこや手をつないでくれたぬくもり
- 2 名前を呼んでくれた両親の声
- 3 病気の時に看病してくれたこと
- 4 送り迎えをしてくれたこと
- 5 自分の好きなことを応援してくれたこと
- 6 持ち物にすべて書かれたママの文字
- 7 辛い時に味方になって一緒に考えてくれたこと
- 8 帰りが遅くても起きて待っていてくれたこと
- 9 作ってくれた好物の味
- 10 一生懸命に働いてくれたこと

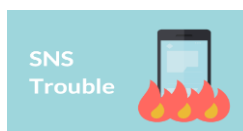


夏休み中は特に注意！！

～SNSのトラブルとは～

夏休み中は「SNS」による被害・トラブルが増加します。(別紙参照)

- 1 その画像送ってはダメ！！
- 2 気軽に会いに行かないで！！
- 3 長時間のスマホ使用に注意！



【ここに響く言葉 Vol.14】 生徒諸君へ

知らないと損する 勉強効率が上がる10の数字

- 1 脳が言い訳する前に「5・4・3・2・1」で動く。
- 2 スマホは手に取るまで「20秒」かかる場所に置く。
- 3 焦りやイライラは「6秒」待てば消える。
- 4 暗記は一気にやらない。「7個」ずつ分ける。
- 5 当日復習しないと、授業の「40%」はゴミになる。
- 6 場所を変えて「3回」見れば、脳が重要と判断する。
- 7 新しいことを始めて一番きついのは「3日目」。
- 8 面倒なことも「21日」あれば習慣に変わる。
- 9 歯磨きと同じ無意識レベルになるには「66日」。
- 10 5秒の直感と30分の悩み。結果は「86%同じ」。



夏休み中のスクールカウンセラー来校日



8月6日(木) AM ・ 8月28日(金) 終日

